

展覧会制作から見た 作家・コレクションの魅力 ～モディリアーニとシャガール～



モディリアーニ 《おさげ髪の少女》1918年

- ◆ 講師 名古屋市美術館参与 深谷克典
- ◆ 開講日 第2日曜日 10:30～12:00
- ◆ 受講料 6カ月(6回)分 18,150円(税込)



今から100年ほど前。パリには世界中から大勢の芸術家が集まり、彼らはエコール・ド・パリ(パリ派)と呼ばれました。中でも重要な作家がモディリアーニとシャガールです。ともにユダヤ人として生まれた二人ですが、作風も人生もまるで対照的な歩みを見せます。この二人の芸術を、時代背景も絡めながら紹介します。

4月10日	<p>【モディリアーニと彫刻】 若いころのモディリアーニは彫刻家を目指していました。残された作品は僅かですが、巨匠ロダンを批判したその作風は極めてユニークです。ヨーロッパの彫刻の歴史も踏まえてその特徴を検証します。</p>
5月8日	<p>【モディリアーニと肖像】 モディリアーニ作品の大半を占める肖像画。そのモデルとなった人々の顔ぶれをみただけで、100年前のパリの華やかさの一端を知ることができます。肖像を眺めながら、100年前のパリへ旅立ちましょう。</p>
6月12日	<p>【モディリアーニと裸婦】 モディリアーニ生前唯一の個展は、裸婦のスキヤンダルによって歴史に残りました。長い伝統を持つ裸婦の表現の中でも、その存在感と官能性において彼の裸婦は傑出しています。その魅力を探りましょう。</p>
7月10日	<p>【シャガールとロシア】 ロシア生まれのユダヤ人。シャガールを理解するために、この二つの要素を忘れることはできません。彼ほど自らの民族にこだわった画家はいないでしょう。二つの要素が作品の中どのように表現されたのか見ていきます。</p>
※7月31日	<p>【シャガールとパリ】 シャガール自ら認めているように、彼の作品はパリとの出会いなくして誕生しませんでした。パリの何が、どのようにしてシャガールを変えたのか。初期の作品を中心に分析します。</p>
9月11日	<p>【シャガールと南フランス】 南仏ニースにはシャガール美術館がありますが、彼はその人生の後半を、南仏で多く過ごしました。他にもピカソやマティスなど、南仏で後半生を送った画家は少なくありません。シャガールを中心に南仏と画家たちのつながりを見ていきましょう。</p>

※8月14日は休講日のため、7月31日に振替授業を行います。



詳細は下記フリーダイヤルまでお問い合わせください。

- ※受講料には維持管理費が含まれています。
- ※一部の講座の受講料には著作権使用料が含まれています。
- ※内容・日程は変更になる場合がございます。ご了承ください。
- ※講座により募集締切日が異なりますので、お問い合わせください。
- ※お申込みの人数によっては、開講中止となる場合もございます。予めご了承ください。

中日文化センターへ
初めてご入会される方は、
別途登録料550円(税込)が必要です。

